

る抄教しそまゝ人の所由は中ノ諸士下ノ我日ノ金
城ノ一併定ノ後老人ノもの病則舊古ノ未ハノ樂も
ハ一泡然ハ遠近ハ可ハノ入来ハノ之ノ様式ハ
ハハ之人ハ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
制ノ物諸ノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
よハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一

大石の税

安永七年大坂五輪登車大石行門記小石の人心

之場ノ古ノ納ノ力ノ代重式ハノ求ノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
中真

此度首途為錢別贈一腰

大石主税反

梅川本藏源行因

ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一
ハハノ一掃ノ者ハノ年進ハノ一

又北古川より本梅記の如く本花より者も安眠する事未だ其以
 内花の換抱の如く私を本花の如く以てて此花より本花の如く以
 てしそふし相違なる事あるが如く此花の如くして換抱一決致す
 花物より学より然りしは私よりして北川本花の如く北川高世古
 花門より北川より大石氏花の如く換抱は
 北川本花 同市郎高 同登 同八花
 在御書付て世奴の力よ成りそふより一歳に渡り御遊覧月
 書ぬる事とのこと

大石氏花の如く

一書より折りの時雨より結文とみちの色ありし
 花の月よりまれしはゆえたる如くしてさるる如く
 がしとの如くまれしはゆえたる如くしてさるる如く
 如くして秋の月の
 如くして月とてしはゆえたる如くしてさるる如く

梅外翁

大石氏花

石を護院の如く所作と云え信不花

系法の記

享保の如くは御書付ての如く人 云の如くして日同國に如く